

またしてもオンライン授業に（魂ソウル編）

4年生は毎年運動会で「魂ソウル」という演技（ダンス）を披露しています。4年生が3年生に踊りを教え、中学年の演技として見てもらっていました。ところが今年は残念ながら、9月から再びオンライン授業になり運動会は中止に。

しかし、夏休み明けの2週間、4年生の子どもたちは、運動会に向けて魂ソウルの練習に一生懸命取り組みました。3年生にどのように教えると分かりやすいか話し合い、3年生の子どもたちの前に立ちました。各クラス2人ずつの4人がリーダーシップを発揮し、話し合いを進めました。4つのグループに分かれ、役割分担をしたり、自分のセリフを練習したり、実際に教えるときと同じようにリハーサルをしながら、準備を進めていきました。

教える本番3年生の前に立つと、緊張しながらも自分の役割をしっかりと果たそうと一人一人努力をしていました。もちろんリハーサルしたようにはいきません。3年生がなかなか動けなかったり、4年生もどう教えていいか戸惑ったり、苦勞している姿もみられました。人前に立ち、実際に教えてみる。その通りに行かないのは当然。その時にいかにどう対処するか。どんなアドリブで切り抜けられるか、ここがいい学習になっていきます。お兄さんお姉さんとして3年生の前に立ったこの経験は4年生を大きく成長させました。結局、ビデオに撮り10月終わりにZOOMで配信しました。





(魂ソウルをビデオで撮影、保護者からは ZOOM で配信したのを見てもらいました)

「魂ソウル」は、日本の民謡（よさこい、おわら、八木節、佐渡おけさ、ソーラン節等）にアリラン、イムジンガンなど韓国の伝統的な音楽を組み合わせたソウル日本人学校中学年の伝統的な踊りです。撮影当日は、3、4年生が体育館に集合。それぞれの学年 T シャツ（3年生は赤、4年生はブルー）を身に着け、その上には、ハッピーを着て、手には鳴子！カッコいいスタイルに変身して、今までの練習の成果を十二分に発揮し、カッコよく踊りました。

ソウルを歩くその②（昌徳宮～チャンドックン～）

(世界遺産～昌徳宮＝チャンドックン～)

話は前回続きのソウル探検隊（隊と言っても私一人ですが…）。前回探検した「景福宮」の東、チャンドックンを訪れました。噂？によると景福宮より「好きだな」「よかったな」という声を聞きます。ガイドブックでは景福宮より後に紹介されていますが、ここは世界遺産に登録されています。その理由も含めてその秘密を知りたいと探検を始めました。

まずは、正門。「景福宮」の正門が敷地正面にあるのに対し、「昌徳宮」は正面左端（西側）



(正門「敦化門」= 1609年再建)

にありました。当時は離宮として建てられたと説明があり、景福宮の東にあることから、この位置に門があった方が歩いて行ったときに、便利だったのか？など思いを巡らせながらいざ！宮殿の中へ。



（ソウル最古1411年の石橋＝錦川橋）

（仁政門をくぐると正面に正殿が鎮座）

錦川橋を渡り、右に折れ、進善門をくぐると、だだっ広い回廊のような塀に囲まれた空間に出ました。そのまま真っ直ぐ進み、広場の真ん中、視線を左に向けると、仁政門があり、そこをくぐると、そこが「昌徳宮＝チャンドクン」の正殿、「仁政殿」。ここで国王の重要な公式行事が行われたようで、現在の建物は1803年の再建。景福宮の正殿＝勤政殿が1867年の再建と書かれていたので、これより64年ほど古いこととなります。仁政殿の前には、それぞれ地位によって控える位置が決まっているようで、その位置が石碑で示されていました。



（約200年前の再建正殿「仁政殿」）

（従者の地位により？控える位置が石碑で）



（仁政殿の中には玉座がこれも中国風？）

玉座を拝見し、バックヤードへ。王や王妃、王族のくつろぎの場が広がっていました。オンドルが使われていた場所もあり、生活感ある興味深い所でした。

このあと、「すごくいいよ！」と勧められていた「後苑」はまたの楽しみに、この日は、歩いて15分ほど、もう一つの世界遺産「宗廟」を訪れました。ここも良かったです。本当にソウルは歴史が深い！

今回、景福宮、昌徳宮を訪れましたが、いずれも1592年に焼失しています。この年は、6年生の歴史でも出てくる、いわゆる秀吉の「朝鮮出兵」の年です。日本人として、この二つの宮殿必ず見なくてはいけないと感じました。コロナで任国外に行けないので、韓国国内をたくさん歩き、この目で見て、極めたいと思っております。